

## 「いのちをいただく」を主題とした道徳科の事例研究

～食育との関連を図った道徳科の指導と評価の在り方～

### A Case Study of Moral Studies on the Theme of "Receiving Life"

～How to teach and evaluate moral education in relation to dietary education～

東京栄養食糧専門学校 坂口 幸恵

#### 1 問題の所在と研究の目的

「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には、協力的な指導についての工夫として、担任のみならず他の教員の得意分野を生かした指導の重要性が示されている。中学校においてはローテーション道徳として学年がチームとなり指導体制を工夫している実践が多くみられる。しかし、養護教諭や栄養教諭など、学校に1名の専門教諭が意図的・計画的に道徳科の授業に関わっている実践は少ない。筆者は今年度から栄養教諭の育成に携わっているが、本研究において栄養教諭が道徳科の授業に関わることの効果を提案したい。

2005年7月に食育基本法<sup>1</sup>が施行され18年が経過したが、「知育、徳育及び体育の基礎としての食育」が学校現場に浸透しているとは言い難い。依然として学校の教育目標は「知・徳・体」が主流である。これでは知・徳・体の基盤である食育が疎かにされていると言わざるを得ない。各校では安心・安全な給食指導は熱心実践されており、守りとしての食育は推進されているが、栄養教諭や栄養士が主体となった児童生徒の発達段階に応じた意図的・計画的な攻めの食育指導が十分とは言えないのである。改めて食育を見直し、食育の6つの視点(食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化)を踏まえて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を育むことが求められる。そのために、道徳教育との関連を図り、児童一人一人に食の知識・経験と日本の食文化について次世代に伝えていこうとする意欲や態度を育むことが必要であると考えた。

食育は、豊かな自然、先人から受け継がれてきた文化、社会経済といった環境と密接な関係を持ち、生活の場としての地域とのつながりも関連している。そこで「食育の環(わ)」を主題に、生産から食卓までの食べ物の循環、子供から高齢者、そして次世代といった「生涯にわたる食の営みの循環」について考え、議論する道徳科の授業を提案したい。

毎口にする食べ物が私たちのところに届くまでには、生産・加工・流通など様々な過程があり、たくさんの人の手によって支えられている。食べ物を取り巻く様々な事柄について、知識や理解を深めることを通して、食べ物の大切さを考えさせたい。さらに、我が国の令和3年度の食品自給率<sup>2</sup>が38%であり、62%は海外からの輸入によるものだという点についても触れ、話し合いをさせていきたい。併せて、本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品ロスが、令和2年度の推計で522万トン発生したことをとらえ、食品ロスを減らすためにどのようなことを心がけていくべきかを議論させたい。

では、道徳教育で食育にアプローチするにはどのような取り組みが効果的なのか。家庭科や総合的な学習の時間と関連させた総合単元的な道徳教育の学習が児童の理解を深めて

## 研究ノート

いくものとする。佐藤典子<sup>3</sup>は「道德教育としての食育」の中で、『私たちの道德』<sup>4</sup>における食育をまとめ、小学校3-4年生で、生命を感じての題材に注目し、「命あるものを大切に」をタイトルに、食事をいただくことは命をいただくこと、たくさんの命に支えられて私たちは生きているに注目している。

筆者も道德科では、一単位時間の道德科の主題名と、食育の視点をリンクさせて授業構想を立て、児童に考え、議論させる授業展開をすることが効果的だと考える。特に、内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」をリンクさせた授業実践することを通して、児童の道德性の育成及び食育への取り組みの意欲を高めていきたいと考えた。この提案は、食糧自給率に課題を抱える我が国において、「食品ロス」を教える導入ともなると受け止める。指導体制は、担任と栄養教諭のチームティーチングが効果的であると考えた。

さらに、本研究の趣旨に沿った生命尊重の道德科教材を開発し、私たち人間は様々な食材から「命をいただいている」ことに感謝し、たくさんの命に支えられて生きていることを実感させる道德科の指導と評価の在り方を追究したいと考え、本主題を設定した。

### 2 「食育」と関連ある道德科教材の分析と課題

道德科教科書には、食育に関連する内容の教材が散見しているが、その数は決して多いとは言えない。今回実践研究する小学校中学年の教科書には、食育の観点から活用できると思われる内容が17教材掲載されていた。その内訳は以下のとおりである。

希望と勇気	思いやり	感謝	家族愛	伝統文化	国際理解	生命尊重
2教材	2教材	3教材	1教材	3教材	3教材	3教材

掲載されている教材を食育の6つの視点に当てはめると次のようになる。

食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
1教材	2教材	3教材	1教材	2教材	8教材

内容項目「伝統文化」と「国際理解」の教材はおせち料理や国による食マナーの違いの話で、食育の視点「食文化」とのかかわりが強いように思われる。内容項目「希望と勇気」の教材は有名パティシエやあんぱんを開発した人の話で、食育の視点「社会性」とのかかわりがある。本実践で取り上げる「生命尊重」では、光文書院の教材「いただきます」<sup>5</sup>が、コメや野菜を作っている人々にありがとうと感謝する内容で、本研究の趣旨に沿っていると考えられる。その他は、日本文教出版の教材「赤ちゃんもごはん食べているよね」で、妊婦さんが食べていることは、おなかの中の赤ちゃんも食べていることと実感させる内容がある。光村図書の教材「生きている仲間」は、トマトをベランダで育てる内容で、主人公が食材の生産に関わるという話である。

なお授業実践では、生命はかけがえのない大切なものであり、その生命をいただくことで自分の生命が支えられていることに気付かせ、感謝の気持ちをもって命をいただくことが自他の生命を大切にすることにつながると実感する学習指導過程を提案することを通して、児童の「生命尊重」の道德性を育成し、食育の視点「感謝の心」の意欲を高めるようにしたいと考える。

# 研究ノート

## 3 道徳科授業の実践

(1) 内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」をリンクさせた道徳科の教材開発  
本実践では、内田美智子著の絵本『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』<sup>6</sup>を教材として開発し、活用することとした。本教材の主人公は食肉加工センターで働く坂本さんである。自分の仕事の在り方について葛藤する中で、牛との別れを悲しむ女の子と出会う。仕事を辞めようと考えていたが、女の子の家族の言葉を聞いて、自分の仕事に誇りを持つよう決心する内容である。坂本さんが出会った女の子は、初め、食肉になった牛の肉を食べることができないでいた。しかし、その牛のおかげで家族が生活できることに感謝し、「ありがとう」「おいしかあ」と言って泣きながら食べた。大切な命をいただくことで、自分たちが元気に生きていけるということに気付かせたい。また、自分を支えてくれる全ての命に感謝し、大切に食べることが、全ての生命を大切にすることにつながることに気付かせたい。

なお、学習指導要領では内容項目「生命の尊さ」で、命の連続性を扱うのは高学年とあるが、本区が読書科で『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』を中学年で採用したと関連させて、道徳科でも命の連続性を中学年で扱うこととした。

### (2) 主題「生命尊重」に関わる児童の意識調査

「生命尊重」についての調査は、江戸川区立 S 小学校 3 年 1 組の児童 30 人に、令和 5 年 5 月と授業後の 6 月に実施し、その意識の変容を調べた。調査項目は、「命はどのようなものだと思いますか」の問いに、自分の気持ちに当てはまるものを次の中から「一番大切」「もどらない」「生きている時間」「家族とのつながり」選択させた。その結果、「一番大切なもの」と 29 人が回答したが、個別面接をすると「命は大切」と習ったからという概念的なものであり、実感が伴ったものではないことがうかがえた。さらに、「もどらない」という考えが 6 人と少なく、ゲームでのリセットにあるように、人の命もリセットできると考え、命は一度限りのものであるという理解が伴わない発言も聞かれた。

### (3) 主題名「生命尊重」についての授業実践

#### ① ねらいと教材

食材にも生命があることを理解し、生きとし生けるものの生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしていこうとする態度を育てる。

教材名 「いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日」 内田 美智子 講談社

#### ② 学習指導過程

段階	学 習 活 動 ○主な発問◎中心発問 ・児童の反応	☆指導上の留意点 ※資料・準備物 ◇評価
導 入	1 「食肉の加工」について考える。 ○「食肉の加工」とはどんなものだろうか。 ・牛や豚を飼育して殺して食肉にする。 ・鶏を狭い場所で飼育して食肉にする。 ・加工する場面を考えると食べにくい。	☆教材への導入を図る。 ※食品加工について栄養教諭が説明する。 ※事前のアンケートをもとに意図的指名をする。
	2 教材「いのちをいただく みいちゃんが	※担任教師が範読する。

展	<p>お肉になる日」を読んで、話し合う。</p> <p>○お話を読んでどんなことを感じたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子は先生の助言で、父親の仕事に誇りを持てた。</li> <li>・女の子はみいちゃんとの別れが辛い。</li> <li>・女の子は最初は食べられなかったけど、最後は感謝して食べていた。</li> </ul>	<p>☆話を聞いたうえで、子供たちが感じた率直な意見を担任が引き出していく。</p>
	<p>○男の子は、なぜ父の仕事に誇りを持てたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父の仕事がなければ、みんなは牛肉を食べられない。</li> <li>・父の仕事のおかげでおいしい肉を食べられるんだ。</li> </ul>	<p>☆先生の助言を理解し、父の仕事の大切さを実感した男の子の気持ちに共感させる。</p>
開	<p>◎ どうして女の子は、泣きながらもみいちゃんを食べることができたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みいちゃんのいのちを無駄にしたくなかった。</li> <li>・初めはつらかったけど、みいちゃんが肉になってくれたことで、生活できることを知っているから。</li> <li>・「おいしかぁ」と言葉にすることで、みいちゃんに感謝の気持ちを伝えて、食べることで「ありがとう」の気持ちを伝えたかったから。</li> </ul>	<p>☆最初は食べられなかったのに、最終的に食べられたのはなぜかと、分析的な発問をすることで、生命を大切にするということは感謝の気持ちをもっていのちをいただくことだという価値に迫らせる。</p>
	<p>[補助発問]</p> <p>「みいちゃんを食べることがつらかったのなら食べなければいいのではないですか」</p> <p>「わざわざ『おいしかぁ』と言葉にしたのはどうしてだろう」</p>	<p>※栄養教諭が食育の視点「感謝の心」について触れる。</p>
	<p>3 改めて生命尊重について考え、自分の考えをまとめる。</p>	<p>☆自身の意見を明確にする手段として、場合によっては補助発問を設ける。自分と異なる仲間の意見を比較することで、自分の考えを深める。</p>
	<p>○ 生命尊重について自分の考えを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みいちゃんを育てている方はどんな気持ちで育て、どんな気持ちで食肉加工センターに送り出しているのか考えた。</li> <li>・坂本さんが、自分の仕事を続けようと思えるようになったのはなぜかを考え、私たちは食肉から命をいただいていると</li> </ul>	<p>※発言、ワークシートへの記述</p>
		<p>◇生命尊重の価値について自分の考えが記述できているか。</p>

## 研究ノート

	<p>実感した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる食材には命があり、その命に感謝して食べることが大切だと思った。</li> </ul>	
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○振り返りシートに本時の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは命をいただかないと生きていけないから、命に感謝して食べたい。</li> <li>・私たちは、他の生き物の命を食べることで、命をつないでいることが分かった。これからは、食べ物にきちんと「いただきます」と言って食べようと思う。</li> </ul>	<p>☆自分の考えを振り返りシートにまとめ後、交流する。</p> <p>※振り返りシート</p> <p>◇生命の有限性について理解し、食材への感謝の気持ちを持つことができたか。</p>

評価の視点としては、次の3点を挙げた。

- 道徳的価値の理解…生命には有限性・連続性があり、生命の大切さについて理解し、様々な命から成り立つ食材に感謝する心を持つことができたか。
- 多面的・多角的に考える…他者の考えに触れ、自分や他者の考えを比較し、主題に関わる考えを深めることができたか。
- 自分の生き方に結びつけて考える…命の尊さについて理解し、自分のこととして生命を大切にするとともに、様々な命から成り立つ食材に感謝しようとする意欲を高めることができたか。

授業観察の観点は次の2点を挙げた。

- 内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」について児童一人一人が自我関与している発言や記述が捉えられたか。
- 展開における発問の構成は、ねらいとする価値へ迫るために適切であったか。

### ③ 実践授業の記録(導入＝栄養教諭、展開＝担任、中心発問＝栄養教諭、終末＝担任)

- 「食肉の加工」とはどんなものだろうか。
  - ・飼っていた牛や豚を殺して食肉として売ること。
  - ・鶏を狭い場所で飼って卵を産ませたり、殺して肉にしたりしている。
- 牛肉は貧血予防、豚肉は代謝が良くなり、鶏肉は疲労回復に効果がある。人間は動物の命をいただいている。
- 『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』を読んで、感じたことを発表しよう。
  - ・坂本さんの息子は、先生のアドバイスで、父親の仕事に誇りを持つようになった。
  - ・女の子は自分の家で育てたみいちゃんと別れるのがつらくて仕方なかった。
  - ・女の子はみいちゃんを最初は食べられなかったけど、みいちゃんのために最後は感謝して食べていた。
- 男の子は、なぜ父の仕事に誇りを持てたのだろうか。
  - ・父の仕事を隠そうとした自分だったが、先生の言葉にハッと、食肉加工という父の仕事がなければ、みんなは牛肉を食べられないと考えた。

## 研究ノート

- ・父の仕事のおかげで友達も地域の人もおいしい肉を食べられているんだ。
- ◎ どうして女の子は、泣きながらもみいちゃんを食べることができたのですか。
- ・自分の家で育てたみいちゃんのいのちを無駄にしたくないと思ったから。
  - ・初めはみいちゃんを食べるなんてできなかったけど、みいちゃんが肉になってくれたことで、私の家族は生活できることを知っているから。
  - ・みいちゃんを食べることで「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思った。
- 食材へ感謝の心をもつことは大切です。みいちゃんにも伝わっていることでしょう。
- [補助発問] みいちゃんを食べることがつらかったのなら食べなければよかったのでは。
- ・みいちゃんは死んでしまったから、家族で食べてあげることが大事だと思う。
  - ・私が食べてあげないと、みいちゃんがかわいそう。
- [補助発問] 「わざわざ『おいしかぁ』と言葉にしたのはどうしてだろう。
- ・「おいしかぁ」の言葉はみいちゃんへの感謝の気持ちだと思う。
  - ・「おいしかぁ」はみいちゃんに報いたいという気持ちや、みいちゃんへの恩返しという言葉。
- 生命尊重について自分の考えを発表しよう。
- ・毎月「小松菜の日」に給食の小松菜を持ってきてくれる農家さんは、江戸川区の特産品を大事にしている。野菜にも命があり、無駄なく食べることが生命を大切にすることにつながっていると思った。
  - ・食材は多くの命から成り立っている。命をいただかないと私たちは生きていけないから、食材という命に感謝して食べたい。
  - ・私は食べたくないとおかずを残していた。私たちクラスだけでも毎日ずいぶん食材を捨てている。これは食品ロスだと思う。
  - ・適量の食べ物を作り、残さず食べることが食材の命を大切にすることになる。この積み重ねが地球の命も大切にすることにつながると思う。
  - ・私たちは、他の生き物の命を食べることで、命をつないでいる。これからは、食べ物に感謝し、毎回「いただきます」「ごちそうさま」と言って食事をしていきたい。

### ④ 実践授業の成果と課題

実践授業の成果と課題についてまとめる。まず成果は、次の3点である。

- 内容項目「生命尊重」と食育の「感謝の心」について登場人物の考え方や生き方から考えさせる発問構想…登場人物の悩みや迷いにも共感しつつ、前向きに生きることの尊さを発問したことが、児童の道徳的価値理解に効果的であった。
- 食育の視点「感謝の心」と関連を図った TT での発問…中心発問「なぜ女の子は、泣きながらもみいちゃんを食べることができたのか」で自分の考えをワークシートに書き、グループで発表し合う活動を実践した。「お肉になったみいちゃんも含め、食材は多くの命からできている」「命をいただかないと私たちは生きていけない」「食材という命に感謝して食べたい」等、生命の尊さを自分事として考えたことが伺える。また「私たちは、他の生き物の命を食べることで、命をつないでいる」と命の連続性に気付き、「食べ物に感謝して食事をすると食育の視点「感謝の心」に触れる発言が聞かれた。
- 児童の発言・記述を内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」の2つの視点に分類して評価…児童の発言やワークシートの記述を2つの視点に分類・整理することが評価

## 研究ノート

に役立った。

課題としては、次の3点である。

○内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」を捉えた絵本教材の開発…本研究では作家・内田美智子の絵本『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』を教材として開発し、活用したが、教材がやや長く、3年生の発達段階としては事前に読み聞かせをするなどの配慮が必要であった。そこで、さらに3年生の発達段階に適した内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」の教材を開発する必要がある。

○内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」を関連させた道徳科の効果的な指導と評価の在り方…2つの視点に分類・整理する評価について、他の内容項目や食育の視点との関連を図った実践についても検証する。

○道徳教育と食育を関連させた総合的な学習の時間の単元を提案する…総合的な学習の時間において「食育における課題、フードマイレージや食品ロスなどについて調べ、自分の考えをまとめる探究的な学び」を単元に、児童自身が、食育の課題を自分事としてとらえ、どのように解決していこうとしているのかを考え、議論する総合的な学習の時間の単元を提案したい。単元の中では、個別最適な学びではタブレットを活用し課題解決を図るとともに、グループ討議や全体発表の場を通して協働的な学びを設定することで、課題解決に向けての意欲や態度を高めていきたい。

### 4 研究の成果と課題

本研究では、『「いのちをいただく」ことを主題とした道徳科の事例研究』をテーマに、食育との関連を図った道徳科の指導と評価の在り方について授業実践を行った。

研究の成果は次の3点である。

① 担任と栄養教諭のTTがねらいの達成効果的であった…導入と展開における中心発問を中心に栄養教諭の専門性を活かして食育の視点から助言をしたことが、児童の食材への感謝の心を育み、本主題へ迫る指導に大変効果的であった。

② 内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」の関連を捉えた価値理解の深まり…教材の登場人物の悩みや迷いに共感しつつ、前向きに生きることの尊さについて考え、議論したことで、児童の道徳的価値理解を深めることができた。

③ 内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」の2つの視点に分類して評価…児童の発言やワークシートの記述を2つの視点に分類・整理することで、児童の内容項目「生命尊重」と食育の視点「感謝の心」を関連させた指導の評価を円滑に行えた。

課題は、次の1点である。

① 道徳教育と食育を関連させた総合的な学習の時間の単元を提案する…総合的な学習の時間において「食育における課題、フードマイレージや食品ロスなどについて調べ、自分の考えをまとめる探究的な学び」を単元に、児童自身が、食育の課題を自分事としてとらえ、どのように解決していこうとしているのかを考え、議論する総合的な学習の時間の単元を提案したい。

今後も、様々な手法を創意工夫し、生徒の道徳性を育む指導と評価の在り方について検討を進めていく考えである。

## 研究ノート

### 5 おわりに

本研究では、道徳科の指導体制の充実の一つとして栄養教諭が道徳科の授業に関わることの効果を提案した。「知育、徳育及び体育の基礎としての食育」を少しでも学校現場に浸透させたいと考えたからであった。栄養教諭が道徳科の授業を実践するにあたっては、学年や担任との連携が不可欠であり、年間指導計画に基づいて意図的・計画的に実践を積み上げていくことが求められる。内容項目と食育の視点を関連させた授業実践を積み重ね、さらに深く考え、議論していく学習活動の在り方を模索していきたい。この実践研究を契機に、道徳教育推進教師がリーダーシップを発揮し、全教職員が主体的な参画意識をもって自校の道徳教育並びに道徳科の授業に参加するよう支援していく。また、本研究での道徳科の実践を生かして、児童一人一人の生命尊重の態度や食への感謝の心を育む指導の在り方を模索していきたい。

今後も、人格の完成を目指す学校教育の中核を果たすのが道徳教育であることを肝に銘じ、先行き不透明な時代に生きる児童に、主体的な生き方を目指そうとする意欲を高める道徳科の実践を積み重ねていく所存である。

### 参考文献

- <sup>1</sup> 『食育基本法』（農林水産省、2005年6月）
- <sup>2</sup> 「食品自給率」（農林水産省ホームページ、2021年）。
- <sup>3</sup> 佐藤典子「道徳教育としての食育」（東都医療大学紀要 第8号、2017年）、p15-21。
- <sup>4</sup> 文部科学省『私たちの道徳（3・4年）』（教育出版、2015年）、p10-11。
- <sup>5</sup> 加藤宣行、土田雄一「ゆたかな心」（光文書院、小学3年道徳教科書、2020年2月）、p48-51。
- <sup>6</sup> 内田美智子『みいちゃんがお肉になる日』（講談社、2013年12月）。